

名古屋大学教育学部 2008年度 後期

教育方法学講義I

- 教育方法概論 -

第10回 講義資料 W

担当 柴田好章 (教育方法学・准教授)

学び合う組織としての学校とは？ — 学校を基盤とする研究の意義と方法 —

◆◆教師の自己研修

— 現代教育方法事典より

「研修」とは、「_____と_____。 _____法 (1949) 第_____条

「_____公務員は、その_____を遂行するために、絶えず_____と_____に努めなければならない」

職務命令による研修ではなく、教師自身の不断の自主的自発的な研修こそが基本

「教師のライフコース研究」の調査から

教師の転機を生み出す契機

「教育実践上での経験 (特に問題を抱えた子どもとの出会い)」

「学校内での優れた人物との出会い」

実践の質的向上に意義あるもの

「所属校での研修」

「職場の雰囲気や人間関係」

「自分の意欲や努力」

「学校全体での研究活動・研究体制」

「研究会・サークルへの参加」

教師は、日常の教職活動・教育実践活動の中で、直面する状況と課題に即して、

個人および集団で自己研修を積み、その過程で教師としての専門的力量も獲得

_____以降、学校内外において、個人および集団レベルでの自主的_____

単に教材や授業の研究など、教職活動遂行に直接役立つようなものだけでなく、幅広い_____や豊かな_____の獲得を目指すようなものにまで及ぶ。

_____運動でも研究会

1960年代中ごろから学校全体で一つのテーマのもとに取り組む_____（_____）が盛んになってきたが、1978（昭和53）年6月の中央教育審議会答申「教員の資質能力の向上について」では、_____を教師の指導力向上策と位置づけた。以後、国・県・市町村の各レベルでの_____

_____制度の普及ともあいまって、_____は盛んになっていった。また1980年代に入ると、しだいに各都道府県レベルで「生涯研修体系の整備」が図られてくるが、そのなかに_____研修と並んで_____研修もまた位置づけられ、それに対する助成制度も打ち出されるようになってきた。

教師の研修制度

インフォーマルな_____営みに内在していた発達サポート機能を制度化しつつ、整備されてきた。

_____化による保障という積極的な面をもちながらも、_____化という否定的な面

個人ニーズから出発した様々な_____的_____的研修活動を援助していく多様なプログラム

そ真に一人一人の教師の発達を支え力量形成を促していくように機能しうる配慮が必要とされている。

[参] 山崎準二『教師のライフコース研究』創風社、2002。久富善之編著『教員文化の日本的特性』多賀出版、2003。（山崎準二）

